
経済 TOPICS

No. 236

(2024 年 10 月 16 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産がやや弱めに推移しているものの、輸出が持ち直しの動きを示し、個人消費の底堅い動きが続いていることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、政府による電気・ガス料金支援の終了に伴うエネルギー価格の上昇を主因に、緩やかに上昇している。この間、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の低迷、米国大統領選など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産は横這い圏内で推移しているものの、個人消費や設備投資が底堅く推移していることから、全体としても底堅く推移している。この間、中古住宅販売は低調が続いているが、労働需給はやや改善している。消費者物価は、エネルギー価格の下落を主因に前年比プラス幅が縮小している。

（参考）物価動向

＜日本＞ 政府による電気・ガス料金支援の終了に伴うエネルギー価格の上昇を主因に、緩やかに上昇している。この間、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きも続いている。

＜米国＞ サービス価格の上昇圧力は続いているものの、エネルギー価格の下落を主因に前年比プラス幅が縮小している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
